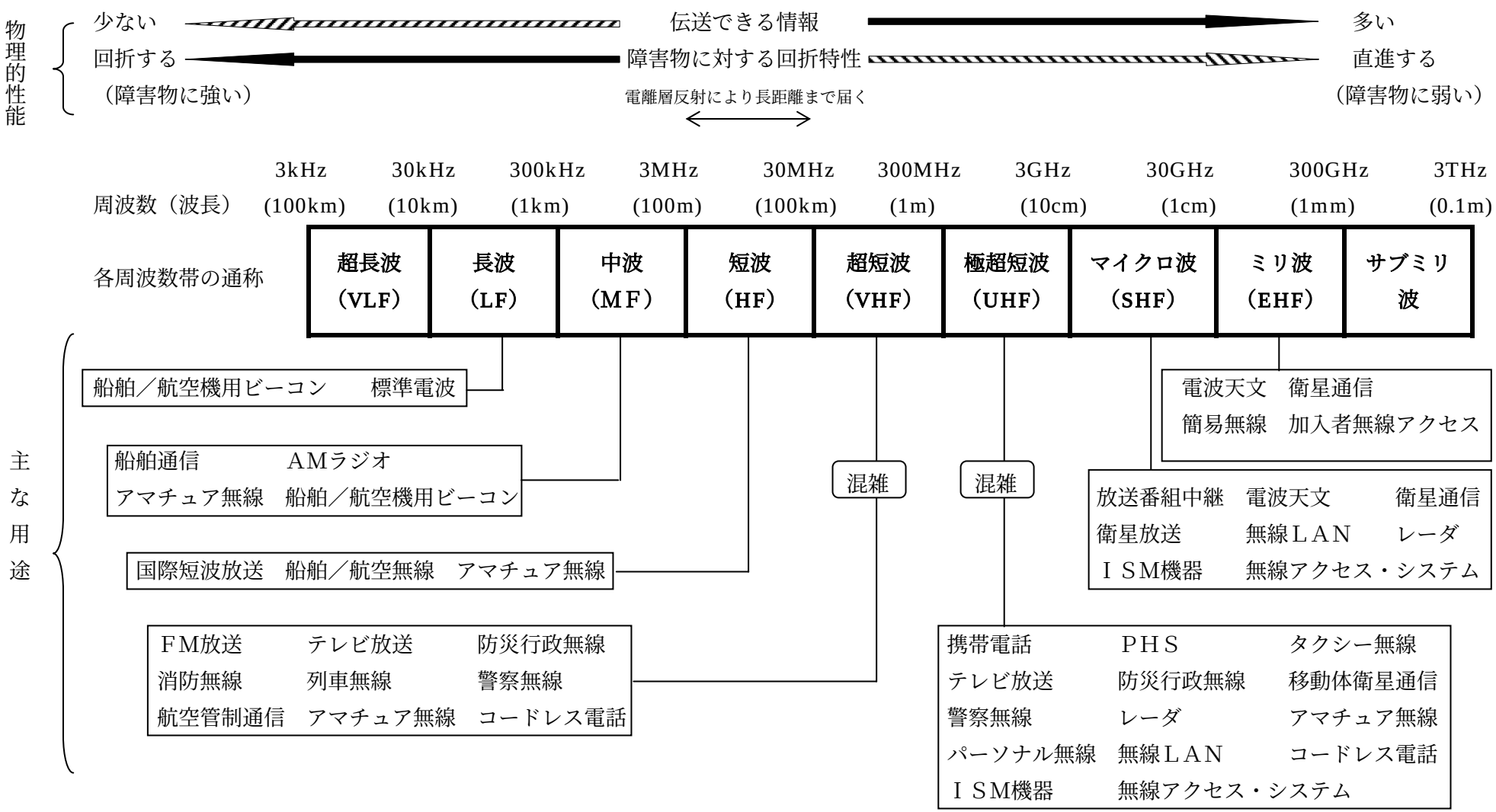

図　国内の周波数帯区分と主な通信機器。電波法では周波数が 3000GHz（3THz）までの電磁波を電波として定義している。利用が集中し、混雑しているのは 300M～30GHz の帯域。特に混雑しているのが極超短波の UHF 帯。IEEE802.11b の無線ＬＡＮや Bluetooth などがここに含まれる。同域帯が混雑する理由は、コストや伝送速度などの点で有利であり、かつ技術的に通信機器を作りやすい点にある。

（日経 BYTE／2002 年 7 月号 p.88 の図 11 から作成）